（３）その他の遺構

平場にてSX24 竪穴遺構を発見しました。長さ4.9m、幅1.9mの不正形な長方形を呈しており、深さは1.5mです。底面の隅には溝や柱の跡があり、西辺には階段状のステップが確認できます。近世以降の地下室（むろ）とみられますが、出土遺物がないため時期は不明です。

写真６　SX24竪穴遺構（北から）

4. まとめ

【中世】

①城跡北西部を南西から北東へ横断する堀跡（SD５）1条を確認しました。昨年度確認した分を含めると、長さ70mとなります。

②堀跡は空堀で、新旧2時期あり、改修されていたことが分かりました。

③堀跡は丘陵北東側から入る沢を利用して作られており、城跡北西部を区画する「堀切（ほりきり）」の役割があったとみられます。

④城跡北西部の防御施設の実態がより鮮明に明らかとなったことで、主に史料や伝承によって伝えられてきた「小屋館城」の実態を解明する上で貴重な成果となりました。

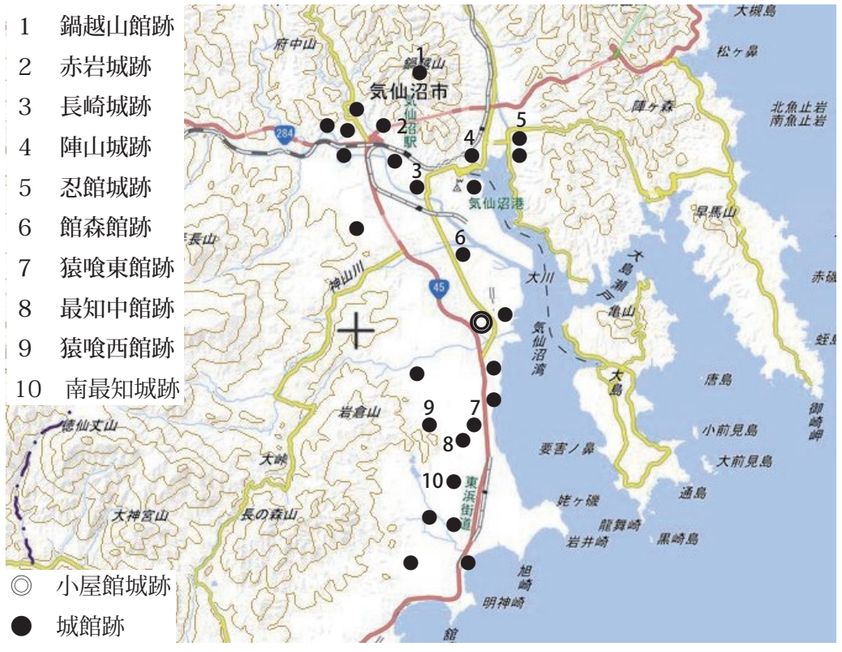
【近世以降】

①近世の墓（土坑墓）を１０基発見しました。

②地下室とみられる竪穴遺構を１軒発見しました。

③小屋館城が廃絶した後の土地利用の在り方が分かりました。

1　鍋越山館跡
2　赤岩城跡
3　長崎城跡
4　陣山城跡
5　忍館城跡
6　館森館跡
7　猿喰東館跡
8　最知中館跡
9　猿喰西館跡
10　南最知城跡

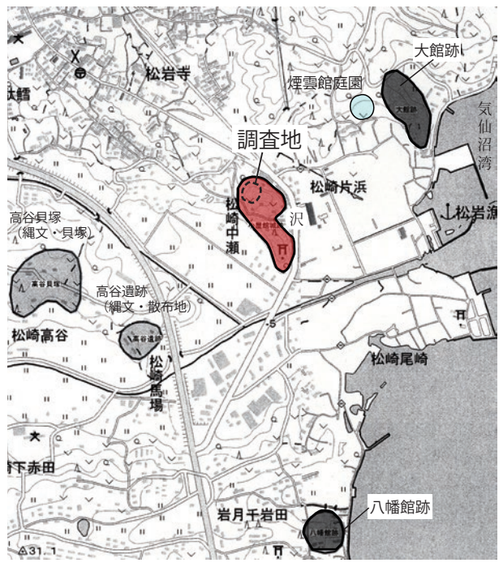


◎　小屋館城跡
●　城館跡

第５図　小屋館城跡と周辺の城館跡

調査要項

遺跡名　：小屋館城跡（宮城県遺跡登録番号：59049）
所在地　：気仙沼市松崎中瀬
調査原因：三陸沿岸道路建設事業
調査主体：宮城県教育委員会
調査担当：宮城県教育庁文化財保護課
調査協力：国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所
　　気仙沼市教育委員会
　　古谷館八幡神社
調査面積：約500㎡（調査対象面積：約1,000㎡）
調査期間：平成29年6月5日～8月末日（予定）



第１図　小屋館城跡と周辺の遺跡

1. はじめに

現在、気仙沼市内では三陸沿岸道路の整備が進められていますが、その一部が小屋館城跡にあたるため、工事に先立ち平成28年度より本格的に発掘調査を行っており、今年度は2年目に当たります。

また、三陸沿岸道路は「復興道路」として早期完成が期待されているため、当教育委員会では、発掘調査の早期終了に努めているところです。

2. 小屋館城跡の地理的環境と歴史的環境（第１・２・５図）

小屋館城跡は気仙沼市街地南側の松崎中瀬（まつざきなかせ）に所在する中世（鎌倉～室町時代）の城館跡（じょうかんあと）であり、気仙沼湾奥に面し、北西から南東へ湾内に延びる小丘陵の突端部の尾根上に立地しています。

この小丘陵の尾根は、小さな沢で南東部と北西部とに大きく二つに分かれています。各場所には、標高15～20mの平坦面がみられ、小屋館城の「平場（ひらば）」と考えられています。この平場からは、東側正面にある大島や、眼下に広がる気仙沼湾が一望できます。

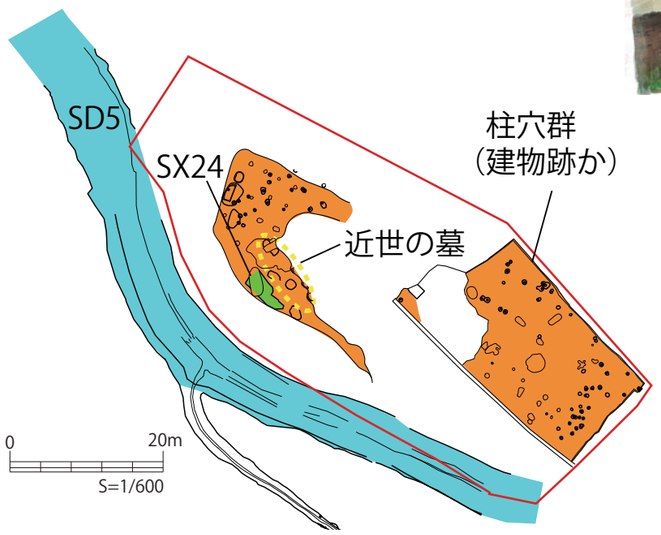
小屋館城跡の周辺には城館跡が多く所在しており、中世に気仙沼を治めていた熊谷氏の居城とされる赤岩城を中心に、気仙沼湾や東浜街道を眼下に望む場所に城館跡が分布しています。また「大椚家系図（おおくぬぎけけいず）」には、赤岩城三代の熊谷直光（くまがいなおみつ）の子直定（なおさだ）（13世紀前半頃の武将）が「松崎館主元祖」であったこと、『仙台領古城書上（せんだいりょうこじょうかきあげ）』によると、城主が「熊谷左京進（くまがいさきょうのしん）」で、規模は「東西十七間　南北七十八間」であったことが記されています。また、過去の発掘調査では、城跡の南東部において堀跡が発見されており、城の構造や歴史的背景を考える手がかりとなっています。

3．調査成果

調査地は城跡北西部の中央にあたり、中世・近世以降の遺構・遺物を発見しました。以下、調査成果について記述します。

第２図　小屋館城跡全体図（発掘調査・※縄張り調査による）

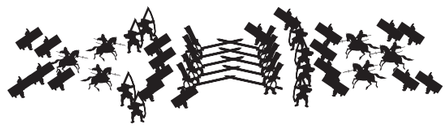
第３図　小屋館城跡鳥瞰（ちょうかん）図（推定復元）



第４図　今年度の調査区と遺構の分布

※縄張り調査

地表面を観察し、城館の平場（曲輪（くるわ））や堀・土塁などの遺構を簡易的な測量で図化し、記録する調査法。小屋館城跡では、第２図のような平場・堀跡・土塁跡などが観察できます。



（１）中世の遺構（第２～４図、写真１～４）

堀跡１条を発見しました。この堀跡は昨年度の調査にて発見した堀跡（SD ５）の続きであり、丘陵北東から入る沢を利用して、城跡北西部を２分するように巡っていました。また、平場では柱穴を発見しており、建物の存在が想定されます。

【SD ５堀跡】

城跡北西部を横断するように南西から北東に巡っています。規模は最大で幅５ｍ、深さ 1.8 ｍであり、昨年度調査分を合わせて長さ 70 ｍ分を確認しました。土層の断面から、新旧２時期が確認でき、改修されていることがわかりました。

写真１　SD ５堀跡と平場（北から）

写真２　SD ５堀跡の断面（北から）

写真３　SD ５堀跡・平場の調査状況（西から）

写真４　SD ５堀跡の南西側（北東から）

（２）近世の遺構（第 ４ 図、写真５）

平場にて墓（土坑墓）を10基発見しました。大きさは、幅0.6m～1.0m、深さ0.4m～1.0mです。中から銅銭（寛永通宝）、柄鏡、キセル、刀子（小刀）などが出土しました。堀跡の上部からは墓石が出土しており、城が廃絶した後には、平場が墓地として利用されていたことが分かりました。

写真５　SK17 土坑墓と出土遺物（北西から）